

地球と走ろう 環境にやさしいエコドライブで

エコドライブ 10 のすすめ

エコドライブは費用をかけずに今日からすぐにも実践できる方法です。私たちのちょっとした心がけで、二酸化炭素排出量の削減につながります。できる項目から実施し、無理なく継続することが大切です。実際の運転では、車の流れにのり交通法規を守り安全優先で走行しましょう。



環境シリーズ
はじめなギヤ
Part 116

◆環境課

☎ 587 - 6003

FAX 587 - 3834



①ふんわりアクセル「eスタート」

普通の発進より少し緩やかに発進するだけで 10% 程度燃費が改善します。最初の 5 秒で時速 20km が目安です。

②加速・減速の少ない運転

車間距離を短くすると、ムダな加減速の機会が多くなり、市街地では 2% 程度、郊外では 6% 程度も燃費が悪化します。

③減速時は早めにアクセルを離そう

エンジンブレーキを使うと 2% 程度燃費が改善します。従って、減速するときや坂道を下るときにもエンジンブレーキを活用しましょう。

④エアコンの使用は適切に

車のエアコンは車内を冷却・除湿する機能ですから、暖房のみ必要なときはエアコンスイッチを OFF にしましょう。外気温 25℃ の時に、エアコンスイッチを ON にすると 12% 程度燃費が悪化します。

⑤ムダなアイドリングはやめよう

駐停車の際にはアイドリングを止めましょう。10 分間のアイドリング（エアコン OFF の場合）で、130cc 程度の燃料を消費します。また、現在の乗用車では基本的に暖機運転は不要です。

⑥渋滞を避け、余裕をもって出発しよう

出かける前に渋滞・交通情報を確認しておきましょう。たとえば、1 時間のドライブで道に迷って 10 分余計に走行すると 17% 程度の燃費悪化に相当します。

⑦タイヤの空気圧から始める点検・整備

空気圧チェックを習慣づけましょう。タイヤの空気圧が適正値より 50kPa (0.5kg/cm²) 不足すると、市街地で 2% 程度、郊外で 4% 程度燃費が悪化します。また、エンジンオイル・オイルフィルタなどの定期的な交換によっても燃費が改善します。

⑧不要な荷物はおろそう

車の燃費は荷物の重さに大きく影響されます。100kg の不要な荷物を載せて走ると 3% 程度燃費が悪化します。また、空気抵抗にも敏感です。キャリアなどの外装品は、使用しないときは外しましょう。

⑨走行の妨げとなる駐車はやめよう

迷惑駐車は渋滞をもたらし、他の車の燃費を悪化させるばかりか、交通事故の原因にもなります。

⑩自分の燃費を把握しよう

自分の車の燃費と日々の燃費を把握することで、エコドライブ効果が実感できます。



【出典：エコドライブ普及連絡会策定資料より抜粋】

毎月第 4 土曜は
廃食油回収の日

平成26年5月24日午前10時～正午

回収会場：市役所別館横電話ボックス付近 回収物：廃食油、牛乳パック、アルミ缶
問環境課☎ 587 - 6003、エコロジーマーケットやすの会・増村☎ 586 - 1441

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

(116)

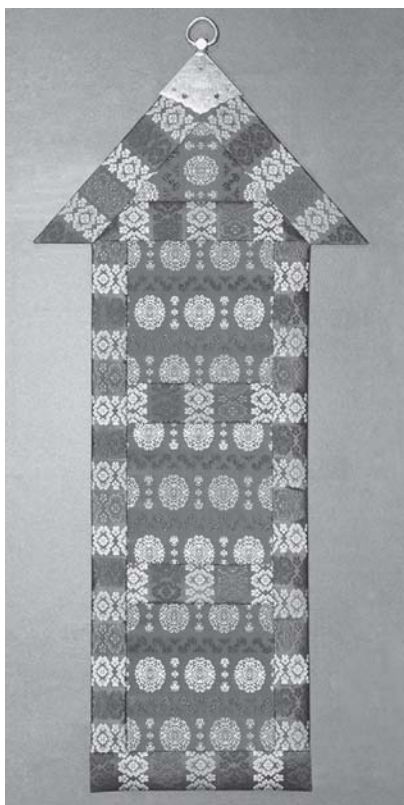
【休館日】月曜日（祝日は開館）、5月7日

※市民は入館無料

◆テーマ展「昭和のくらし—昔の道具にまなぶ—」／6月1日(日)まで

◆特別公開「兵主大社古神宝 中世裂の復元」共催：兵主大社／6月1日(日)まで

◆弥生の森体験学習／毎週土曜・日曜日、祝日、午前9時～午後3時 まが玉作り（約60分・500円）など



錦幡復元品
(写真提供：兵主大社)

500年の歴史を経て、よみがえった古神宝の裂地には、室町時代の厳かな風合いを見ることが出来ます。この機会にぜひご鑑賞いただき、中世の人々が造りあげた美の世界にふれてみてください。

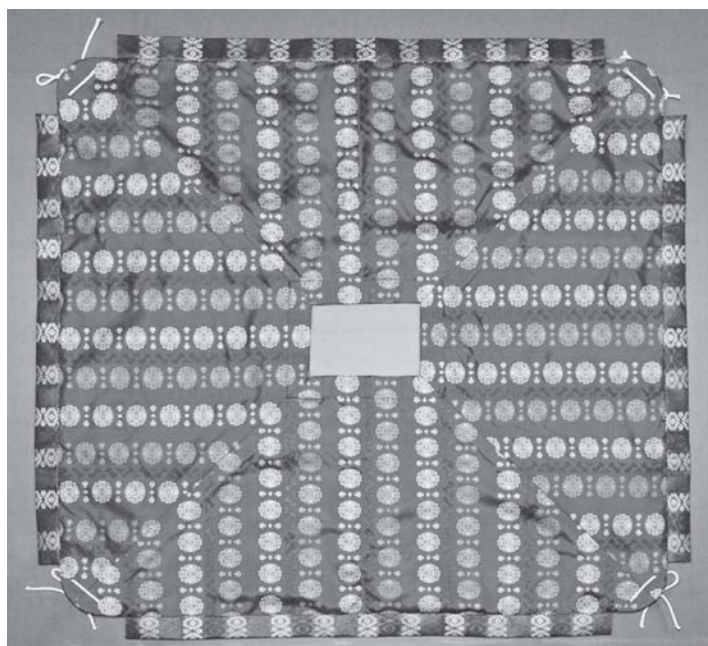
（博物館学芸員 行俊勉）

兵主大社（五条）は、「兵主さん」の名で親しまれ、「兵主十八郷」と呼ばれる氏子の村々の信仰を集めています。数多くの文化財を伝えており、美しい朱塗りの楼門は、入母屋造、檜皮葺で、両側に翼廊を伴い、室町時代の建築で県指定文化財です。庭園は国の名勝に指定され、発掘調査により平安時代の庭園遺構もみつかっています。毎年5月5日の春祭りには、氏子の村々から神輿や太鼓が渡御してにぎわいます。

神社では、このたび、朝日新聞文化財団の助成を受けて、「室町古神宝中世裂の復元」に取り組みました。この事業は、神社に伝来する古神宝の裂地を、染織の研究者や技術者の協力をえて、当時の姿に再現するもので、文化財の復元事業として大がかりな作業となりました。「裂」とは、織物、布地のことで、神社に伝わる室町時代の裂地の組織や染料を分析したうえで織り上げられ、鮮やかによみがえりました。

神輿天蓋裂は、神輿を覆い飾るもので、大きさは110cm四方、中央に宝珠を出す方形の穴を残して縫製しています。この裂で覆われていた神輿は祭礼で担ぐものより小さく、神社本殿において御神体を納めていたと考えられています。天蓋裂は、赤地花丸文様錦、縁は萌葱地変菱文様錦で、文様に密教法具の三鈷杵が施されており、仏教的な装飾から当時の神仏習合の信仰をみる事ができます。今回の展示では、室町時代の原品と、復元品を対比してご覧いただきます。錦幡は、神社伝来の古神宝で、重要文化財に指定されています。長さ82cm、幅38cmで、裂地は神輿天蓋裂のものをを用いており、同時期のものです。復元にあたっては、吊金具の

製作を野洲市の酒井神仏具店に依頼し、当時の姿に再現されました。左右一対あり、おそらく神事や法要の時に社殿や



神輿天蓋裂復元品 (写真提供：兵主大社)

仏堂に懸けて飾られたと思われます。また、古神宝の鍔などにみられる神紋「亀甲花菱紋」の裂地も、今回の復元作業の中で反物に織り上げられました。

兵主大社古神宝 中世裂の復元 —よみがえった室町時代の染織品—

ちゅうせいぎれ